

カカオ・キタ! =わたしたちのカカオ
Kakao kita!

チョコレートとパプアを知るためのワークショップ教材集



子どもから大人までみんなをとりこにするチョコレート。お菓子の王様といえるような存在であるにも関わらず、どうやって作られているのかを知っている人はまだまだ多くないように思います。また、原料となるカカオの産地での児童労働や環境破壊の問題など、食べる人を「甘く幸せ」にするチョコレートの裏側で今日も起きている「苦く辛い」真実についても、まだまだ知られていません。

このたび APLA では、チョコレートについて、カカオの産地のパプアについて、楽しみながら学べるワークショップ教材集を作成しました! 5つのアクティビティと読みものが収められていて、対象年齢は小学生から成人まで(アクティビティによって異なります)。学校の授業やサークル、地域の仲間との勉強会など、それぞれにあった形でご利用ください。

「カカオから作る手づくりチョコレートキット」とあわせて、どうぞ!

販売価格: 648円(税込・送料別)
内容: A4 サイズ 28ページ+付録(写真セット)
※ご注文は、電話・FAX・APLA SHOP(ネットショップ)で承ります。下記までお問合せください。



特定非営利活動法人 APLA
〒169-0072 東京都新宿区 2-4-15 サンライズ新宿 3F
《TEL》03-5273-8160 《FAX》03-5273-8667
《E-mail》shop@apla.jp
《APLA SHOP》http://www.aplashop.jp/



特定非営利活動法人 APLA (Alternative People's Linkage in Asia)
フィリピン・ネグロス島での20年以上の経験を活かし、「農を軸にした地域づくり」のためのネットワークの構築を目指して、出会いや交流の場の創造を進めています。【HP】http://www.apla.jp



株式会社オルター・トレード・ジャパン (ATJ)
パラゴンバナナやエコシュリンプなどの食べ物の交易で、生産者と消費者を顔と顔の見える関係でつなぎ、人と人、自然が共生できる社会づくりを目指しています。【HP】http://altertrade.jp/

人から人へ
P to P
people
NEWS



人から人へ
2016.05 vol. 2
特定非営利活動法人 APLA/あぶら(株)オルター・トレード・ジャパン(ATJ)
〒169-0072 東京都新宿区 大久保 2-4-15 サンライズ新宿 3F
TEL:03-5273-8160 FAX:03-5273-8667 E-mail:info@apla.jp

オルター・トレード社 (ATC) で仕事を始めて 29 年になります。8 人兄弟姉妹の 6 番目としてネグロス島に生まれました。学生時代は、大学を卒業してきちんとした仕事につき、安定した収入を得られるようになることが最大の夢でしたが、ATC で仕事をする中で人生観が変わりました。それまで考えたこともなかったこと、つまり自分たちの周囲で起きていることや社会の不正義と真実が見えるようになったのです。

フィリピンでは長年、社会変革を主張する人びとは政治的活動に加わることが主でしたが、ATC の活動は、貧困に喘ぐ人びとのための具体的な経済活動だということが、私にとっては目からウロコでした。

1987 年、私は設立されたばかりの ATC に会計担当として入社しました。当時 ATC にはスタッフが 5 人しかいませんでしたから、私は会計にとどまらず何でもしなければなりません。総務の仕事、マスコバド糖の買付けや袋詰めの手伝いまでしました。



忘れられない出来事があります。マスコバド糖のサンプルを日本に送り出すために、私にとっては右も左もわからない土地に買付けに行ったときの事です。マスコバド糖を積んだトラックが事故に遭ったのです。偶然にも私は別の車に乗っていたのですが、同乗していた同僚は怪我をして病院に担ぎ込まれ、運転手は亡くなってしまったという大変な事故でした。さらに周囲の人びとが横転したトラックからマスコバド糖を盗んでいくのです。目の前で起きていることがショックで、私は気が動転してしまいました。知っている人が誰もいない土地で、私はとにかく村長さんのところに駆け込んで助けを頼みました。盗まれたマスコバド糖を取り戻すことはできないと思うととても空虚な気持ちになりました。そんなひどい経験をしながらも残ったマスコバド糖を何とかバコロドに持ち帰り、日本に送り出すためにそれを節にかけて袋詰めをしなければなりません。今回は...

前編
ヴァージニア・デマイシップさん
(フィリピン / ATC 財務責任者)



た。今ではどうして考えられない状況で、自分のしたことに驚いてしまいます。

そんなところから始まったマスコバド糖の民衆交易が、やがて生産者とのつながりができ、家内工場のような砂糖作りから現在の製糖工場までに発展するなんて、当時は想像すらできませんでした。

その後、バナナの仕事につくことになるヴァージニアさん。後編もお楽しみに!

幕田恵美子(まくた・えみこ / ATJ)

●民衆交易を影で支える現地の方々をご紹介します。



遺伝子組み換え作物(GMO)が世界でもっとも多く生産される国、米国。その米国で、GMOの登場以降、さまざまな慢性疾患が急激に増えています。それは単なる偶然でしょうか？GMOが人びとや家畜の健康に大きな影響を与えている可能性を指摘する研究が続々と発表されています。

このGMOと健康の関係に焦点を絞ったのがドキュメンタリー映画『遺伝子組み換えルーレット—私たちの生命のギャンプル』です。このドキュメンタリーは腸の病気から、自己免疫疾患、アレルギー、自閉症、認知症、精神疾患、ガン、肝臓や腎臓の病気、早期老化、呼吸器器官の疾患、生殖の問題に至るまで広範な慢性疾患とGMOが関わっている可能性を医学者、獣医などのインタビューから明らかにしています。

さらに非遺伝子組み換え(Non-GMO)食品に切り替えたことによって急速に症状が改善した自閉症児の家族や、飼料をNon-GMOにしてから家畜への医療費が急減した畜産家などの膨大なインタビューにより、遺伝子組み換え食品の怖さと同時に、食を選ぶことで得られる希望の両方を知ることができるドキュメンタリーです。

オルター・トレード・ジャパン(ATJ)の呼びかけがきっかけで2015年10月に完成したこの映画の日本語版は全国各地で上映会が開かれ、多くの人たちに衝撃を与えています。「具体的に問題を知ること、自分の食を変えていくきっかけを得ることができた」という感想が数多く寄せられています。

また、2016年2月には、この映画の監督ジェフリー・M・スミスさんをお招きして、福岡、京都、東京で講演会が開かれ、合計1300人近い人が参加しました。

米国で広がる Non-GMO 市場、逆行する日本

ジェフリーさんの活動もあって、米国では Non-GMO・有機の食を求める人が増え、それによる健康状態の改善報告も

数々寄せられています。米国での GMO に反対する運動は厚い政治の壁を破り、続々と食品企業大手がこれまでなかった GMO 食品表示を始め、GMO 原料不使用を宣言する企業も増えています。ここ5年ほどで Non-GMO 市場は4倍とも7倍ともいう急成長を遂げているといいます。

特筆すべきなのはお母さんたちの活動でしょう。「Moms Across America (アメリカ中の母親たち)」という市民組織が結成され、昨年5月には米国中では収まりきらなくなって、国境を越えた母親たちがインターネットを使って、GMOに反対する「Moms Across the World (世界中の母親たち)」として安全な食を求める活動を進めています。

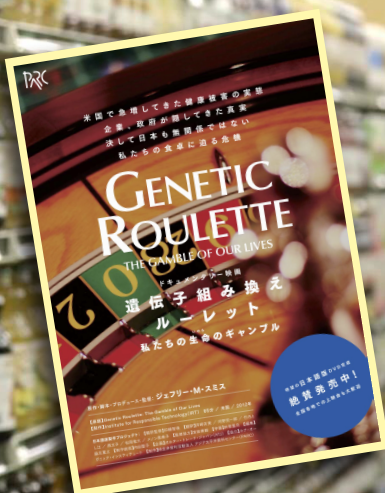
一方、日本では Non-GMO 食品市場は逆に近年急激に縮小しています。昨年にはビール会社が発泡酒や第3のビールの糖類の原料として GMO の使用を開始しました。しかし、日本の表示法では GMO を原料として使っていると書く必要がないために消費者は知らない間に飲まされていたわけです。家畜の餌も GMO 表示が必要なく、加工食品も多くの場合、表示義務がありません。日本のマスコミは GMO が引き起こす問題をほとんど報道せず、日本政府は米国政府以上に GMO 推進に熱心です。

しかし、講演したジェフリーさんは政府が変わるのを待つ必要はないと話します。まずは自分と家族の食を変える。食品企業は数パーセントの売り上げが落ちるだけで大きな問題になるので、数パーセントの人たちが食を変えることで食のシステムを変えることは可能だとのことです。

それは今日からでもできることです。GMOによる農業は耕作地域の農民、住民、生態系に大きな被害を与えています。でも、食のシステムを変えていくことで、危険を取り除き、すべての人が安全な食を得られる社会にしていくことは不可能なことではないのです。あなたの地域でも上映会を開いてみませんか？

印鑰智哉 (いんやく・ともや/ATJ)

この映画についての詳しい情報はこちら
<http://geneticroulette.net/>



『遺伝子組み換えルーレット』

監督ジェフリー・スミスさんを招いて

